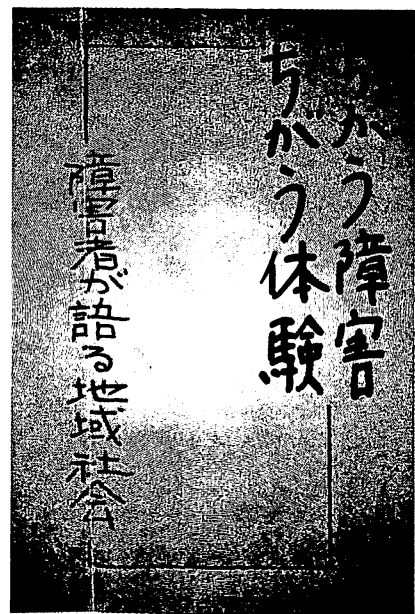


# サロンあべの

サロンあべの No5  
発行日 昭和61年11月5日  
発行者 <サロンあべの> 運営委員会



へサロンあべのVでは、昭和六一年十月十八日「障害者が語る地域社会」と題して、十五名が新しい出会いと語り合いの場をもった。

聴力障害者は外から、障害がわからないため話しかけても返事としないと思われ、特に関わりが浅く、つらい思いもしたと語る川口貴ス氏。

そして、養護学校へ九年間通った後、在定生活を送る斎藤孝文氏は、文字板に指も走せながら、セリ体験と語り合った。

また、春山満氏は、筋力低下と闘いながら、障害者に一番必要な情報を常に提供する障害福祉情報センターの代表として、セリ視覚と、先頃、行なわれた車イス大集合(県示会)の工夫、そして予定している、銭湯の活用と紹介された。特に、現在すでに

ある施設を利用し、周囲の人々や、セラリ理解をもって、例えば、入浴の問題にあたり、というものは新しい有効な方法といえよう。

最後に、松谷終一氏の語り合ったフリービンの施設が現状に陥るお話しも非常に興味深かった。

## PROFILE

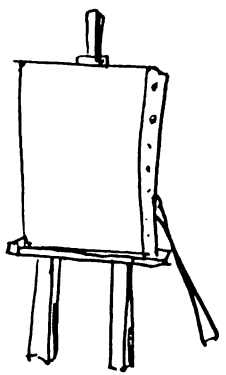
### 斎藤孝文氏

生年月日はいつ?と聞くとあててごらん、と笑いなから文字板に指を走りせる斎藤さんは、昭和三七年一月二十六日生まれの水瓶座、B型、六才から十五才まで堺の養護学校に通い、その後、在定生活を送ってきたが、重い障害にもめげずに、電動車

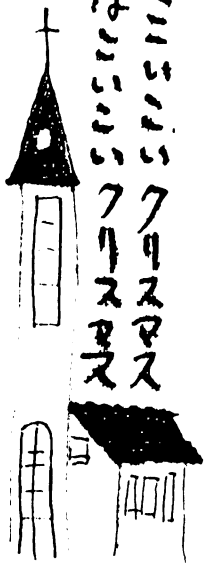
イスを駆って、B型の明るさと、行動力を発揮。二、三年前には、東京・新宿で、障害者仲間が芝居に「ヘビの役」で出演。これはとても楽しかったことの一つという。もっとも車イスでは、十半位前上新庄の駅で階段から落ちて、額を四針も縫うケガにあって、ちんちんと鳴り出した踏切の真中で立ち往生したりと危ない目にも会っている。

さて、昨年は甲子園へ、阪神・広島戦を見に行ったりという野球ファンが、斎藤さんの応援するチームは西武と阪神。

清原が好む、巨人は嫌いだ。そして女性には、フンとすました人、煙草を吸う人、嫌いだ。顔はどうでもい、心やさしい純粋な人がいいという斎藤さんの目はいつも澄みきっている。



### 早くもいよいよクリスマス



子供が頃、枕元に首下を置いてぬらした。幼稚園で、ジングルベルを唄った。小学校のとき、フリーを作った。青春のあったたなから、*Our dreaming of a White Christmas*...と二人でロマンチックなイヴを過ごした。また、派手に湯気に喧しく飲んだ。クリスマスのお祝いはいささか人それぞれ。そこで、今年もへサロンあべのVでクリスマスが新しい思い出を作りませんか。

日時 昭和六一年十二月六日(土) 一時〜三時  
場所 有徳コミュニティセンター二階  
会費 一〇〇〇円  
贈物 当日プレゼントの交換をします。各自三〇〇円位の贈物をご用意下さい。  
申込 富田(六九)二〇二八

### 細井佳不後記



前号では欲張ってたくさん記事を書いた。そのための読者ミツリ紙面構成になり、大へん申しわけありませんでした。以後気をつけます。十月例会の席で寄せられたカンパは一四〇〇円。どうもありがとうございました。十二月六日(土)はへサロンあべのVのクリスマス会です。